



魂の楽園

宮古島は珊瑚礁が隆起してできた島だ。

平らな地形で川がなく、したがって赤土が海に流失することもない。

珊瑚は細かな粒子にまで砕け、島の周囲を包み込む。

亜熱帯の強い日差しが白い海底に反射して、透明な海は真っ青に染まって見える。

宮古島の海は世界一美しいという人は多い。

『楽園』を求めて世界中を旅する写真家、三好和義もまた、

宮古島の海に魅せられたひとりだ。中学 2 年の夏休み、ひとりでこの島に来て以来、

宮古島を撮り続けている。

「世界中のきれいな海を撮ってきたけれど、ここは格別だ。

神秘的な碧が海にも空にも満ちている」と彼はいう。

引き潮の時だけに出現するビーチ。龍の頭のような岩の影から大神島を望む。宮古島の先端、世渡崎より。
撮影 2014 年 9 月 7 日 13 : 13

Paradise Photographer Kazuyoshi Miyoshi and Miyako Island

Many people say that the ocean around Miyako Island is the most beautiful in the world. Kazuyoshi Miyoshi, a photographer, who travels all over the world, is also one of those who are fascinated by the beauty of the ocean around Miyako Island. He has photographed Miyako Island ever since he first visited this island by himself during summer vacation when he was a junior high school student. "I've photographed many kinds of beautiful seas all over the world," he says, "but I think it's exceptional here, because this island is full of Mysterious Blue."

三好和義 よしかずよし

写真家

1958 年徳島生まれ。

13 歳の夏、復帰後すぐの沖縄へひとり旅。那覇港から宮古島、石垣島、与那国島を回り、「楽園」を撮る写真家になることを決意。高校 1 年再来島し、そのときに撮った写真が二科展に入選。高校在学中に、銀座ニコンサロンで開催した「沖縄・先島」は、当時の写真展開催の最年少記録となる。27 歳で写真集「RAKUEN」（小学館）で木村伊兵衛写真賞受賞。同賞は写真界の芥川賞といわれ、日本の写真界において絶大な力を持つ。以来、現在まで「楽園」をテーマに世界各地を訪ね、数多くの作品を発表し続けている。



島尻のパートゥプナハ。集落発祥の地、クバマ海岸に、クバの葉に包まれた仮面が漂着したことがその由来とされる。パートゥのお面は「オヤ」「ナカ」「ファ」の三つがあり、旧暦9月吉日に若者たちが仮面をかぶり、三体のパートゥに扮して、産水であり死水でもあるンマリガーの泥を塗りつけて回る。

祈りは暮らしと共にある



島の祭祀の多くはツカサと呼ばれる女性たちが中心になって行われる。集落によって、その方法はさまざまだが、ツカサたちは神に供え物をささげ、線香をたき、神謡を歌い、踊り、人々の幸福を祈る。神ニガイにはタブーも少なくない。一般人が足を踏み入れることが許されない聖域も多い。

Every community has its own god's sanctuary called Utaki. If it does not rain for a long time, they pray for rain and fertility at the turn of the season. Naoki Ishikawa, a leading young photographer, often visited Miyako Island to take shots of praying and ritual performances.

(Photo left) : Shimajiri Pantupunaha. On a lucky day during lunar September, three young men wear masks, dress themselves up as Pantus, and run around the community throwing lucky mud on the people's faces and on the walls of newly-built houses.

(Photo right): Most of the rituals are mainly performed by women called Tsukasa. They make a votive offering to the gods, burn incense, sing songs for the gods, dance and hope for happiness.

島には集落ごとにいくつもの御嶽があり、それぞれに神々をいただく。そして一年中、どこかで何かしらの祭祀がおこなわれている。雨が幾日も降らなければ天の神に雨乞いをし、季節の変わり目には豊穰を願って神に祈る。時代とともにツカサの不在や、とり行われなくなった神事も多いが、それでも、今なお、人々の暮らしに祈りは根づいている。

石川直樹 いしかわなおき

探検家 写真家

1977年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。写真集『NEW DIMENSION』『POLAR』で日本写真協会新人賞、講談社出版文化賞を受賞。『CORONA』で土門拳賞受賞。人類学、民族学などの領域に関心を持ち、世界中を旅して作品を発表し続けている。宮古島にはたびたび来島し、2014年秋には1か月間、宮古島で写真展「ARCHIPELAGO (アーキペラゴ)」を開催。宮古諸島にフォーカスした作品を展示した。



島を出る仲間を見送る若者たち。それぞれに五色のテープを握りしめ、万歳！万歳！と叫ぶ。

人々の期待と喜びと不安と別れの悲しみを乗せて、平良港を出港した船は、14時間かけて那覇の泊へ向かう。本土へは、そこからまた船の旅が続いた。

東松照明がみた宮古島

東松照明が宮古島にやってきたのは1973年、沖縄返還間もなくのことだった。

沖縄の基地周辺で、戦後アメリカの占領下にあった日本のアメリカ化をテーマに

写真を撮り続けていた東松照明だったが、宮古島でどこからも侵されることのない、

独自の精神性に満ちた文化と出会い、そして人に魅せられ、パイナガマの近くに居を構えた。

「島の人たちの気性も奇抜さがあり、人間的にバイタリティーがあるところで、すごく気に入った」

彼は、後のインタビューに、そう答えている。

そして宮古島での体験は、1976年、代表作といわれる写真集『太陽の鉛筆』に結実した。

若者たちが夜ごと集い、ときには泡盛を酌み交わし、島のこと、社会のことを、

夜通し熱く語り合う場は、『宮古大学』と名付けられ、そこには、いつも東松照明の姿があったという。

Shoumei Toumatsu, one of the leading photographers of postwar Japan, visited Miyako Island right after the reversion of Okinawa to Japan, and lived there for about seven months. He was fascinated by the charm of the unique culture, and the spirit and the people of Miyako Island. He had a large amount of work published in the photograph album "The Pencil of The Sun".

The photo on the left: The young men are seeing off their friends. Each of them has some colorful tape and shout "Banzai, Banzai," wishing their friends good luck. It took the ship 14 hours to get to Tomari port in Naha after leaving Hirara port. Then they started the journey to mainland Japan.

東松照明 とうまつしょうめい

写真家

1930年愛知県生まれ、2012年沖縄にて没。戦後日本を代表する写真家の一人で、海外での評価も高い。1976年に発表された『太陽の鉛筆』には宮古島での7カ月の生活を綴ったエッセイと、宮古島や周辺の島々を撮影した多くの作品が収められている。2015年、絶版になっていた『太陽の鉛筆』は再編集され、『新編太陽の鉛筆』として出版された。



宮古島市長 下地 敏彦

発刊によせて

本市は、平成17年10月1日に平良市、城辺町、伊良部町、下地町、上野村の5市町村が合併し宮古島市が誕生してから10年を迎えました。

本書は、「自然、歴史、産業、文化等、魅力あふれる島」「豊かで安心して暮らせる島」「若者が希望の持てる島」をテーマに、宮古島市の現在(いま)を視覚的に解りやすくご理解いただけるように作成しました。

この宮古島市勢要覧が、市民はもとより、手にされる皆様の様々な場面において、幅広く活用されれば幸いに存じます。

最後に、本書の発刊にあたり貴重な資料の提供、その他格別のご協力を頂きました関係機関各位のご厚意に対しまして心より感謝を申し上げます。

Miyakojima Mayor Toshihiko Shimoji

Preface to the Publication

Over 10 years has passed since the 5 former municipalities of Hirara, Gusukube, Irabu, Shimoji and Ueno merged into Miyakojima City on October 1st, 2005.

This book was designed in order to make it easier for readers to visually understand the contemporary Miyako Island with three themes: a charming island full of nature, history, industry, and culture; a peaceful island where the people can have a rich and safe life; and a wonderful island where the

young people can have their hopes and dreams.

I would appreciate if this Miyakojima municipal census handbook is widely read and used by citizens, and everyone, for a variety of reasons.

Finally, I would like to thank from the bottom of my heart every one of the related agencies' kindness and cooperation for having provided valuable material for the publication of this book.



2015年1月に開通した伊良部大橋は、全長3,540m(サンゴのシマ)無料で渡れる日本一長い橋として注目されている。